

入所障害児 429 人に虐待歴

医療型施設、6 人に 1 人（毎日新聞調査）

医療ケアが必要な身体障害や知的障害などがある子供が暮らす全国の医療型障害児入所施設に、保護者らから虐待を受けた障害児が少なくとも 429 人いるとみられることが、毎日新聞が施設を対象に実施したアンケートで分かった。回答した施設に入所する障害児の 6 人に 1 人の割合になる。

虐待など家庭の事情から国の保護を必要とする子供について、国は児童養護施設などを対象に継続調査しているが、医療型障害児入所施設は調査対象外で、虐待を受けた入所者の全体像は不明だった。厚生労働省で児童健全育成専門官、障害福祉専門官を務めた大塚晃・上智大教授は「入所者に虐待を受けた人が想像以上に多く、きわめて深刻な結果だ。障害に応じた専門的支援が必要で、国は調査して実態を把握すべきだ」と話している。

全国にある医療型障害児入所施設 169 施設にアンケートを送り、136 施設（入所児計 2,643 人）から回答を得た。その結果、児童相談所（児相）に保護されたなどの経緯から虐待を受けたと施設が判断した

障害児は、84 施設の 429 人で、回答した施設の入所児の 16% だった。併設された成人施設の入所者計 7,190 人中、虐待を受けた人は 21 施設の 43 人（0.6%）で、子供を合わせると計 472 人になる。

児相の調査や医師の診断などから、虐待が原因で障害を負ったとみられるのは 472 人中 120 人（25%）、102 人（22%）は身体、知的障害が重複した最重度の障害者だった。頭部の外傷で体のまひや知的障害を負った人が 94 人いた。

虐待の内容（複数回答）は養育放棄（ネグレクト）が 285 人、身体的虐待 181 人、心理的虐待 16 人、性的虐待 6 人。施設が虐待の要因とみている（複数回答）のは「子の病気や障害」が 134 人、保護者の精神疾患 70 人、保護者の障害 62 人、保護者の経済的困窮 52 人、望まない妊娠・出産 24 人。年齢別では 6～12 歳が最も多く 188 人、13～17 歳 138 人、3～5 歳 56 人など。

（毎日新聞・東京（夕刊） 2016 年 3 月 19 日）